

川口若手ものづくり人材育成プロジェクト

【事業概要】

平成27年1月21日



川口商工会議所

目次

川口市の概要	・・・	2頁
プロジェクト発足の経緯	・・・ 3 ～	11頁
プロジェクト活動内容	・・・	12頁
プロジェクト活動実績	・・・ 13 ～	21頁
就職率並びに企業の声	・・・	22頁
今後の展望	・・・	23頁

川口市の概要

東京駅から川口の表玄関・川口駅へは京浜東北線で25分、一級河川「荒川」を隔てて東京都北区と隣接、市内には武蔵野線や地下鉄・埼玉高速鉄道線の駅も有し、市域は首都から20km圏内にある。古くから鋳物と植木（安行地区）の街として知られるが、埼玉高速鉄道線の開通を機に埼玉スタジアム2002や地下鉄南北線との乗り入れで後楽園・東京ドームや目黒方面への便も良くなり、川口駅前を中心とした再開発事業が進められた。平成15年には「さいたま新産業拠点（SKIPシティ）」が、そして17年にはかわぐちキャストィが、オープンし、同年、「駅前大型ビジョン」の放映が始まるなど「映像の街」としても動き出した。また、サッポロビール跡地の「リボンシティ」、川口駅東口前の複合施設「キュポ・ラ」なども次々とオープンし、「産業の街」とともに「新しい生活空間の整う街」として歩み続けている。

そして、平成23年10月11日、隣接する鳩ヶ谷市(60,841人)と合併し、総人口約59万人となり、首都東京と隣接しているという利便性を活かしながら、固有の伝統ある“ものづくり”のまちとして、活力あるまちづくり・人づくりを目指している。



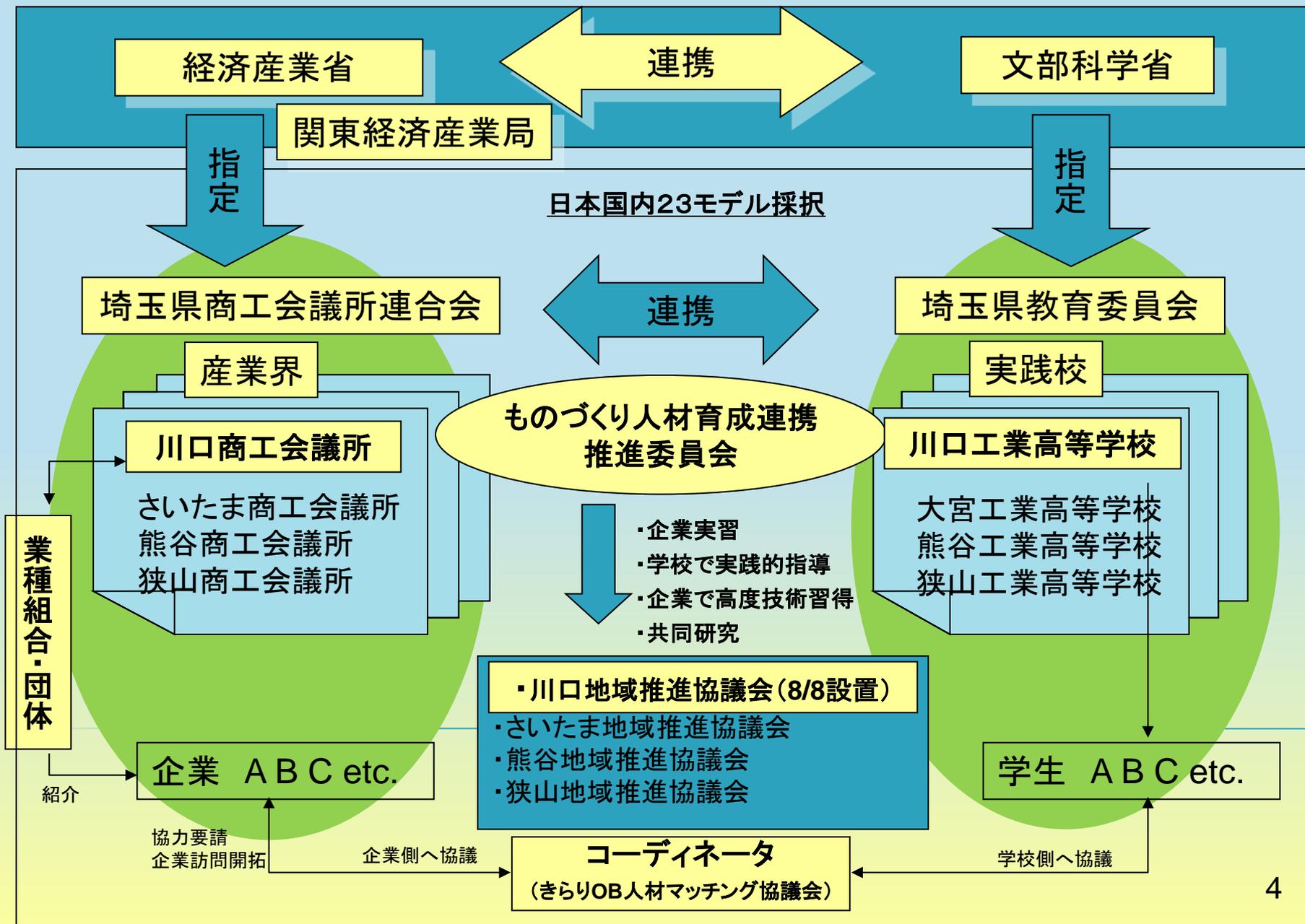
市制施行	昭和8年4月1日
人口	588,963人 (平成26年12月1日現在)
面積	61.97 km ²
世帯数	266,746世帯 (平成26年12月1日現在)
事業所数	21,946事業所 (平成24年経済センサス・旧鳩ヶ谷市を含む)
製造品出荷額	4,475億円 (平成22年工業統計・旧鳩ヶ谷市を含む)
年間商品販売額	10,287億円 (平成19年商業統計・旧鳩ヶ谷市を含む)

プロジェクト発足の経緯 1

【平成19年度～平成21年度】

文部科学省（ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業）と経済産業省（工業高校実践教育導入事業）との共同事業に参画。

さいたま地域、熊谷地域、狭山地域、川口地域の4拠点で事業を実施した。



工業高校等実践教育導入事業 事業報告

委員会等

ものづくり人材育成連携推進委員会

第一回ものづくり人材育成連携推進委員会
川口地域推進協議会
内容： 1. 平成20年度事業報告
2. 平成21年度事業計画
3. 平成22年度以降事業について

川口地域としての平成22年度以降実施する
場合の検討事項
1. 予算
2. 事業実施体制

川口商工会議所

川口鋳物工業（協）

川口機械工業（協）

埼玉県産業技術
総合センター

川口高等技術専門校

川口名匠会

コーディネータ 2人

連携

技術者紹介



川口工業高等学校

・企業技術者の特別授業

機械科、電気科、情報通信科
1年～2年生 計247人

<特別授業>

旋盤作業、溶接作業、板金作業、
フライス盤作業、インターネットと
ケーブルテレビ、インターネット
市場、鑄造実習

・インターンシップ

協力 34社
参加生徒 74人

・企業見学等

協力 8社
参加生徒 319人



インターンシップ協力企業発掘

受入企業紹介

平成21年度協力企業：34社
発掘方法：コーディネータの電話、巡回
による発掘



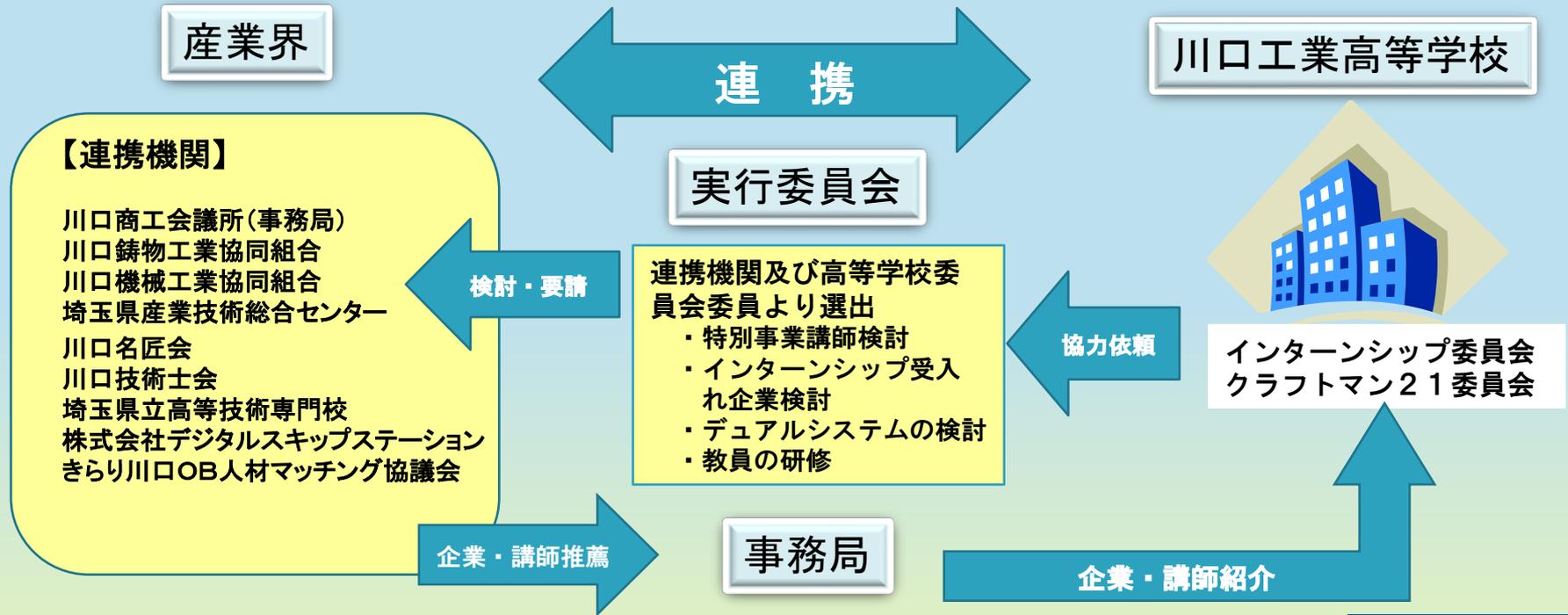
プロジェクト発足の経緯 2

【平成22年度】

全国中小企業団体中央会「ものづくり分野の人材育成・確保事業」補助金に採択され、川口地域単独で事業を実施した。

工業高校実践型人材育成プロジェクト 平成22年度スキーム

平成17年から3年計画で推進された「工業高校等実践教育導入事業」を川口工業高等学校からの強い希望により、平成22年から独自スキームを確立したうえで継続実施をし、市内産業人材育成に貢献するとともに市内企業への就職を促進する。



事業内容

1. 技術者による特別事業・・・企業の技術者が高等学校において実践的な授業を実施する。
2. 生徒のインターンシップ・・・生徒が企業に一定期間の実施訓練を実施する。
3. 企業と工業高校、特にインターンシップ事業実施においては、コーディネータが調整。



プロジェクト発足の経緯 3

【平成23年度～】

川口商工会議所、埼玉県立川口工業高等学校、川口鋳物工業協同組合、川口機械工業協同組合、4者で協定を締結し、各者が費用負担をしながら教育プログラムを実施した。

教育の定着を業界で活躍する資金面の制約がない。独自（下氏香葉子）

校等実践教育導入事業（ク ラフトマン21）に採択されてきたが、昨年度で同制度が終了した。今年度は厚 度の影響を受け、技能士派 遣の予算が廃止。指導の大 きな柱となっていた技能士 への報酬が出なくなった。 た、長年同校の技能教 育に携わり、最近の生徒の 成長ぶりに手応えを感じて いた吉田正吉技能士が手弁 当て指導に携わり、実習に 必要な材料も昨年度の残り

技能検定2級に成果
熟練技能士
手弁当で指導

をうまく活用することで、 何とか今年も授業を続けら れた。生徒の2級取得挑戦 度にも同校の寺田貞紀教 諭も1級に挑戦し合格し た。「生徒の実力を上げる には、指導する側もレベル アップが必要がある」と 感じていたため。 今回、2級に合格したあ る生徒は、「3級を受けた昨 年の経験もあり、指示され る前に、図面を見てどうい う加工の仕方が必要か、自 分で考える癖がついたと 手応えをつかんだ。就職難 と言われる中、多くが企業 に入社して受雇すると

ち学校側の人間ではから しいくことが盛り込まれ ない、民間ならではの指 摘。国の方針に左右され ない、はっとさせられたこ とがたくさんあったと地元 企業との連携メリットを指 摘する。 同校は、クRAFTマン21 が終了することを見込ん で、昨年からの協定締結に 向けて動きだしていた。今 度は川口商工会議所が申請 した全国中小企業団体中央 会による「ものづくり分野 の人材育成・確保事業」の 採択を受け、同事業の予算 を確保した。だが、この制 度も事業仕分けの結果、今 年度で終了する。 過去に経験を踏まえ、協 定には、指導に必要な費用 定には、指導に必要な費用 定には、指導に必要な費用

埼玉の工業高校 地元企業と連携

川口工業高校

地域で地域の 人材育てる

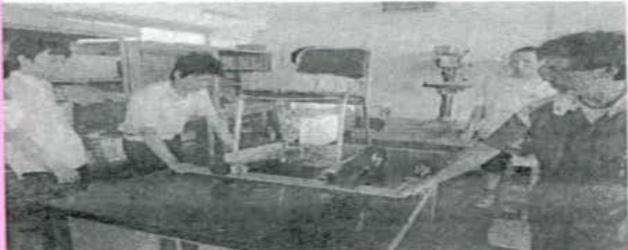
「人が変わっても、地域 で地域の人材育てる任組 みを定着させたい」（岩崎 利信校長）。埼玉県立川口 工業高等学校は7月、川口 商工会議所、川口鋳物工業 協同組合と川口機械工業協 同組合と生徒の技能教育で 連携協定を結んだ。大宮工 業高校同様、クRAFTマン 21で地域産業界と連携した 技能教育を展開してきた。 連携教育をつかんだ手応え から、どうにか独自にシス テムを構築させたいと考え た。

連携授業では、地元の各 企業から技術者を学校に招 き、プロの視点から実技指 導したり、企業と生徒が連 携して、製品を共同開発し たりする取り組みをする。 最近では同校の生徒が川口 商工会議所内の製薬種交流 団体「川口RINC」と電 動車いすを共同開発する事 業を始め、試作品が完成し たばかりだ。

共同開発 自動車いす
プロの指摘 多く
メリット



生徒だけでなく、教員向 けの実技研修や工作機械な



川口工業高校が川口RINCと共同 開発中の電動式車いす 川口工業高校 は商工会議所など3団体と協定締結

と学校にある実習設備を企 業の目標から「ソフト」 設備向上による授業充実に 始まった場合は、有効利用 を続ける。

精神的支柱にもなっていた

業薬 して技能習 場 咲く いる ルム 業を にも 男

川口若手ものづくり人材育成プロジェクト 事業スキーム

地域で学び、地域に貢献

産業界

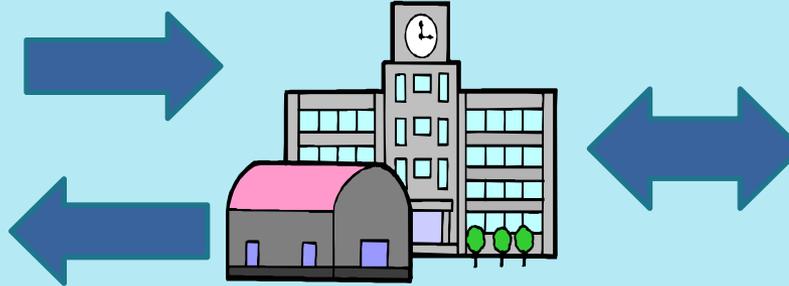
地域の技術力

- ・ 高度技術者による特別授業
- ・ インターンシップ
- ・ デュアルシステムの検討
- ・ 教員の研修
- ・ 企業との共同開発
若手経営者との連携



- ・ 若手ものづくり人材の確保(雇用)
- ・ 技術の伝承

地 学 地 就



人材の輩出

工業高校

基本理念：「**地学地就**」地域密着型工業高校

- 地学とは** ○地域全体を学びの場とする ○地域の教育力を生かす
地就とは ○地域のものづくり人材を育てる ○地域に就職する

地域人材育成

ものづくり人材の「たまご」

- ・ 出前講座(小・中学校)
- ・ 中学校の技術・家庭教員と連携
- ・ イベントの開催(シンポジウム等)
小・中学生、工業高校生及び
その父兄、教員へのものづくりに
対する啓発等



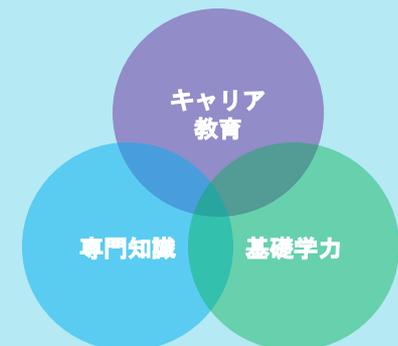
地域産業の振興、若手ものづくり人材の育成、地元就職の促進に向けて

1. 実施体制

(1) 実行委員会(作業部会)の設置

(2) 委員構成

川口商工会議所、川口鋳物工業協同組合、川口機械工業協同組合、埼玉県立川口工業高等学校、川口市経済部、川口市教育委員会、財団法人川口産業振興公社、川口商工会議所雇用対策委員会、関東経済産業局、埼玉県産業技術総合センター、埼玉県立高等技術専門校、きらり川口OB人材マッチング協議会



プロジェクト発足の経緯 4

【平成24年度～平成26年度】

川口市(経済部・教育局)の事業補助を得て、さらに事業を充実させるべく展開を図っている。

プロジェクト活動内容

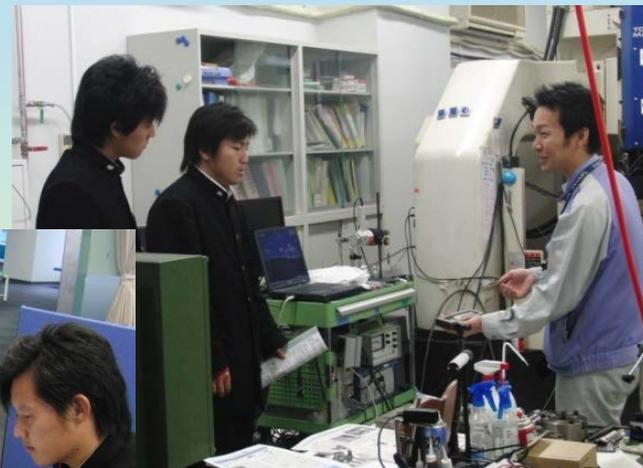
- 川口市は、埼玉県で最も中小製造業者が多く、多種多業種が集積した都市であり、大田区や墨田区そして東大阪市などと並びものづくり産業の底辺を支えている。

平成19年度から市内**関係機関が連携**し、地域全体を学び場として産業資源を教育に生かし、「**地学地就**」を目的に産業人材育成に取り組んでいる。工業高校生の**キャリア教育**が中心だが、小中学校生とその保護者への啓発を促す事業も実施している。具体的には、工業高校生の**インターンシップ**や企業の**高度技術者による実践的な授業**、**教員の企業研修や実技研修**、小中学生とその保護者の**工作体験と工場見学**を行なう「**親子でものづくり体験ツアー**」などを開催し、将来の人材育成に努めている。

プロジェクト活動実績 1

【インターンシップ】

生徒の職業観や勤労観を育成するため、2年生を対象に受け入れ企業において3日間のインターンシップ(企業での就労体験)を実施。年々参加者と受入企業は増加している。(平成25年度実績75社183名受入)



プロジェクト活動実績 2

【高度技術者による特別授業】

高度熟練技能者のもつ高い技術・技能を生徒に伝承するとともに、生徒の技能修得意欲を増進。授業では、「**鑄造技術・旋盤・溶接・板金・塗装**」等、高い技術を持った企業が実践的な授業を担当。（平成26年度実績 述べ18回実施）

①**旋盤、溶接、板金、塗装**（埼玉県立川口工業高校機械科1学年対象）

- | | |
|------------------|----------------|
| ●旋盤…2日間開催20人参加 | ●溶接…2日間開催20人参加 |
| ●板金…2日間開催20人参加 | ●塗装…2日間開催20人参加 |
| 講師：旋盤…(有)白根機械製作所 | 代表取締役 白根 幸男 氏 |
| 溶接…(株)岡特殊溶接 | 取締役会長 岡 綱幸 氏 |
| 板金…(有)信興板金 | 代表取締役 高橋 一馬 氏 |
| 塗装…友栄塗装(株) | 代表取締役社長 増田 学 氏 |

②**半田付け**（埼玉県立川口工業高校電気科1学年対象）

- 半田付け…2日間開催70人参加
- 講師：エスコウインズ(株) 代表取締役 小俣 精一 氏

③**旋盤**（埼玉県立川口工業高校機械科2学年対象）

- 旋盤…2日間開催62人参加
- 講師：埼玉県立川口高等技術専門校 新井 誠 氏

④**インターネット市場**（埼玉県立川口工業高校情報通信科2学年対象）

- インターネット市場…1日間開催75人参加
- 講師：インターネット市場…(株)ASJ(株) 取締役IR部長 仁井 健友 氏



プロジェクト活動実績 3

【親子でものづくり体験ツアー(たまご事業)】

地元の小中学生とその保護者を対象に、鋳物製表札やゲルマニウムラジオ作成等の「ものづくり体験」と「工場見学」にセット参加するツアーを実施。

(詳細別紙)

「親子でものづくり体験ツアー」

開催日：平成26年11月14日(金・祝日埼玉県民の日)

会場：埼玉県立川口工業高等学校、川口市内6工場

内容：製作体験(7コース)及び川口市内工場見学(6社)

参加者：96組の200人以上の親子



川口工業高校教諭・生徒・先生による
製作体験指導



「親子でものづくり体験ツアー」



市内工場見学
(歯車メーカーで
ロボット操作体験)



鋳物工場の見学



エコカー展示【全国大会優勝】

プロジェクト活動実績 4

【教員の研修】

授業のレベルアップを図るため、川口工業高等学校教員を対象にしたインターンシップや企業見学等を実施した。



- ①福祉用具レンタル・販売業、在宅介護支援センター
(リーダーのためのチャレンジ体験研修・7日間)
- ②機械加工メーカー(金型ロール等)
(高等学校初任者研修・1日間)
- ③ゴム製品製造・販売業
(高等学校初任者研修・1日間)

プロジェクト活動実績 5

【中学校の技術家庭教員と連携】

ものづくり人材育成事業に対する啓蒙活動のひとつとして、地元中学校の教員に対し、川口工業高等学校教員が教材開発等(風力エネルギー変換に関する技術)を指導。



プロジェクト活動実績 6

【企業と学校との連携】

市内の異業種連携グループ「川口リンク」が製作し、川口工業高等学校生がデザインしたキャタピラ式電動車いす。



就職率並びに企業の声

【市内企業就職者】



企業からのメッセージ



有限会社白根機械製作所
代表取締役 白根幸男

子供の頃、私達はものづくり現場を身近に感じていました。しかしながら、現在環境問題等で町工場の中の様子を見る事ができません。そういった意味で、高校生を対象とした実践的な技術指導や地元の子供達を対象としたものづくりに対する啓発事業を実施する本プロジェクトは、将来のものづくり人材の育成にとっても役立つものと確信しています。これから就職を向かえる生徒には、是非、良い「人柄」を形成し、何でも良いから人に負けないものを身につけて頂きたいと思います。



株式会社岡特殊溶接
取締役会長 岡 綱幸

学校の授業では教えられない現場の技術や雰囲気を実践的に指導する特別授業や、生徒が実際に企業の現場を体験するインターンシップやプレインターンシップ等、生徒にとって必ず役立つプログラムだと思います。

将来的なビジョンを持っている生徒も持っていない生徒も、まずは色々な現場や技術をその目で見るとして知る。ビジョンさえ持てれば、普段の授業の重要性に気付く事でしょう。本プロジェクトでは、産業界、教育界そして行政等が連携をし、そのような機会を生徒に与える事ができる良いプログラムです。

今後の展望

- 産業界と行政、教育機関等が連携した本プロジェクトにより、工業高校生を対象にした実践的な教育プログラムを実施したことで、若手ものづくり人材の育成、地域産業の振興、地元就職の促進が図られた。
- 今後は、これまでのプログラムに加え、社会人等（一般事業者の技術者等）を対象としたカリキュラムの作成、人材登録制度など「（仮称）ものづくり人材育成センター」の概念を検討し、小学生から社会人までの全階層を網羅した若手ものづくり人材の教育システムの構築を目指す。

ご静聴ありがとうございました。